

▲キントキの魚影は濃く、良型ぞろい

■当日の夜アジ五目仕掛け

▲Tackle Guide
ハリス5号は太いかもしれないが、これは大サバ対策。4号ハリスだと切られることもあり、サバが多いときはさばきやすい6号でもいいそうだ。夜釣りではハリスの太さはアジの食いに影響しないという。

「30メートル付近に反応が出ているので狙ってみてください」とのアナウンス。
アジは日中は水深100メートル前後を回遊していて、夜になるとエサを求めて水深40メートル前後まで浮上してくるという。サバが釣れ始めるとアジも釣れるのがパターンらしく、


ついに本命をゲット
アジが釣れないまま2時間が経過し、「25メートルに反応が出ていたので狙ってみてください」と船長からのアナウンス。今度も船内のあちこちで良型のサバが上がる中、左トモの靖船長にいきなり30センチ級の中アジがヒット。これを皮切りに単発ながらアジが掛かり、4人全員本命の顔を見



▲のんびり夜釣りが楽しめるのも波静かな沼津ならではの

●船宿information
駿河湾沼津久料港
魚磯丸
☎055-942-3230
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=夜大アジ乗合一人1万1000円
(エサ、コマセ、氷付き)
▶備考=予約乗合、18時集合。マダイ五目、泳がせ&落としまみへも出船。貸し道具、仕掛け常備



久保田 清船長

ただ、どれも40センチを超える肉厚の個体ばかりなので3尾ほどキープしたところで22時半の沖揚がりを迎えた。釣果は30センチ前後のアジがトップ4尾、ほかクロムツ、カマス、キントキ、サバ多数。船長によると8月になれば40センチオーバーのアジも釣れるようになることなので、ぜひ沼津へ足を運んでいただきたい。



▲40センチ前後のサバが入れ食い

「潮が速いと釣りにならなくなるそうだが、今日はいい感じで流れているというから期待したい。」
アジは日中は水深100メートル前後を回遊していて、夜になるとエサを求めて水深40メートル前後まで浮上してくるという。サバが釣れ始めるとアジも釣れるのがパターンらしく、

今度はサバの群れが回遊して入れ食い状態に。どれも40センチを超える肉厚の個体ばかり。集合。船長の弟である靖船長も竿を出す。私は右舷ミヨシに釣り座を構えて道具を準備した。

「タナ取りは海面からです。指示ダナより仕掛け全長分下ろして、2回に分けてコマセを振り出して指示ダナに合わせることで、ようやくアジ五目釣りがイメージできるようになった。」



▲8月になると40センチオーバーの期待が高まる

津久料港の魚磯丸。夜の大海アジ五目は40年以上前からの看板釣り物で、シーズンは例年7〜9月にかけて。アジをメインにサバ、キントキ、クロムツ(ムツ)、メバル、エボダイなどさまざまな魚種が狙えるのでファンも多いという。夜アジではなく「夜大海アジ」としているのは、40〜45センチの特大サイズが釣れるから。ただ、久保田船長によるとここ数年は30センチ前後が中心で、40〜45センチ級は交じる程度になってしまったとのこと。

「タナ取りは海面からです。指示ダナより仕掛け全長分下ろして、2回に分けてコマセを振り出して指示ダナに合わせることで、ようやくアジ五目釣りがイメージできるようになった。」

「底付近に反応がビッシリ出ているからキントキが釣れそうだよ」と船長。すると4人ほぼ同時に竿がたたかれた。上がってきたのは良型のキントキ。しかも4人のうち2人が一荷で釣り上げて魚影の濃さがうかがえる。大瀬崎沖は急深のカケ上がりになっていて、潮通しがよく様々な魚が狙える好ポイント。

連日の猛暑で日中の釣りは暑くてたまらないという方には涼しい時間帯に楽しめる夜釣りがおすすめ。
近くの東京湾もいけれど、本誌が発売されるのはちょうどお盆休み。であればプチ遠征気分を味わいたいもの。そこで選んだのが東京から約2時半で行ける駿河湾沼津

エリア。伊豆半島の西の玄関口に位置する沼津エリアは夜釣りも盛んで、アンカーを打つカカリ釣りのタチウオやマルイカ釣りがよく知られているが、今回紹介するのは夏限定の夜アジ五目。夏休みのファミリーフィッシングにも最適だ。
7月27日、釣行したのは沼

津久料港の魚磯丸。夜の大海アジ五目は40年以上前からの看板釣り物で、シーズンは例年7〜9月にかけて。アジをメインにサバ、キントキ、クロムツ(ムツ)、メバル、エボダイなどさまざまな魚種が狙えるのでファンも多いという。夜アジではなく「夜大海アジ」としているのは、40〜45センチの特大サイズが釣れるから。ただ、久保田船長によるとここ数年は30センチ前後が中心で、40〜45センチ級は交じる程度になってしまったとのこと。

メートルの2本バリで、コマセカゴはFLサイズ、オモリ100号。コマセはアミ、付けエサはオキアミを用いる。たとえば東京湾のアジ釣りであればコマセはイワシのミンチ、付けエサはアカタンやアオイソメが定番。オモリの号数こそ違えどこの道具立てや仕掛けは相模湾のイナダ仕掛けとほとんど同じ。船宿仕掛けもイナダ仕掛けだった。船長に釣り方を聞くと、「タナ取りは海面からです。指示ダナより仕掛け全長分下ろして、2回に分けてコマセを振り出して指示ダナに合わせることで、ようやくアジ五目釣りがイメージできるようになった。」

瀬崎沖、水深40メートル前後でアンカーを下ろした。船が固定されると船長から、「タナは30メートル前後です。日没直後から釣れることが多いので、のんびり自由に釣り始めてください」とのアナウンスでスタート。
船長のアナウンスどおり明るいいうちはアタリはない。周囲が暗くなってきた19時過ぎ、船に明かりが灯ると、

夏休みは涼を求めて沼津へのんびり夜アジ五目を満喫

●駿河湾沼津久料港発 ↓大瀬崎沖
本誌編集部 近田憲男 Notio Chikuda

知得! Tips and Tricks
貸し道具がおすすめ

魚磯丸は貸し道具が充実。全長2.2メートルの万能竿と小型電動リールの組み合わせが1000円、テンピンとコマセカゴ、クッションゴムは無料(紛失時有償)で借りられるし、仕掛けは船宿で販売しているので初心者でも楽しめる。
久保田船長は温かな性格で、ビギナーにも優しく釣り方など教えてくれるので、ファミリーにもおすすめの船宿である。

▼こちらが魚磯丸の貸し道具 ▲テンピン、コマセカゴ、クッションゴムのセット

